

広島県知事 湯崎英彦 様

## 旧陸軍被服支廠赤レンガ倉庫の解体に反対します

旧広島陸軍被服支廠（国所有 1 棟、広島県所有 3 棟）について、

- ① 広島県が計画している解体を含む安全対策について、知事がリーダーシップを執って、再検討するように要望します。
- ② 日本の近代化遺産であり、現存する最大の陸軍施設である「物言わぬ被爆者」が、文化財に登録されるように要望します。
- ③ 「国土強靱化基本計画」にある文化財の耐震化の対象に指定されるように要望します。

今、残る被爆建物において、旧広島陸軍被服支廠は最大規模のものです。戦時中、多くの学生を動員して、軍服等を製造し、戦地へ送り出しました。懇談会の中西巖代表は、動員中にここで被爆。赤レンガ倉庫の影にいたために生き残ることができたといいます。自分の被爆した場所に立って、修学旅行生へ被爆体験を語った時のことでした、話を聞いた生徒が、倉庫の赤レンガを撫でながら「熱かったねえ、痛かったねえ」と呟いたのでした。証言が生徒の心に届いたとき、旧広島陸軍被服支廠もまた「物言わぬ被爆者」になるのです。

ローマ教皇が、来広時に、記憶することの重要性を演説されたように、今一度、知事がリーダーシップを発揮し幅広い行政の連携を持って、日本の近現代の記憶を刻む旧広島陸軍被服支廠について、その全体の保存策の検討をするように要望します。専門家の「原爆ドーム以上に貴重で世界遺産クラス」との声に耳を傾け、近代化遺産として文化財に登録されるように要望します。また、国が計画する「国土強靱化基本計画」に基づく文化財の耐震化のモデルケースとして、旧広島陸軍被服支廠の耐震化が進められるように要望します。

住所	氏名